

定礎のスイッチを押す当時の知事、寺本知事(左)と藤井東洋建設社長。
瞬間立ちのぼった水柱を仰ぐ沢田知事(中央)。



〈特集〉

晴れの起工式

日立造船

★有明臨海工業地帯用地の建設起工



係法の具体的な規制内容などを十分検討したうえ、所要の追加を行ない、公害対策の刷新強化をはかつていく考えであります。

かねて、県議会のご協力を得て、進めてまいりました国立電波高校の高専昇格につきましては、新年度から熊本電波工業高等専門学校として発足することとなりましたが、これが設立に当りまして、文部省当局から地元としての協力態勢を要望されておりますので、県といたしましても、西合志町須屋地区に敷地をあつ旋いたしますほか、さらに排水施設など用地条件の整備を行ない、設立の促進をはかつていくことといたしました。

菊池阿蘇有料道路につきましては、本年度内に実施設計を終え、四十六年度には五億六千万円を計上して、本格的な事業実施に入ることといたしております。

交通安全の強化

まず、交通安全対策につきましては、本年度新設された交通巡視員をさらに二十人増員して交通指導の強化をはかりますとともに、緊急を要する信号機、道路標識・標示及び歩道、防護柵などの交通安全施設の整備を促進いたしますほか、交通安全教育の充実などを含めて総額二億二千七百万円の経費を計上して、交通安全の強化に努めることといたしております。

また、近時、再燃しつつある暴力事犯につきましては、ゆるがせにできない問題でありますので、今後、その取締について特段の努力をいたすこととし、必要な措置を講じ、徹底的な撲滅を期してまいりたいと考えております。

〈新空港〉

次に、新熊本空港につきましては、四月一日に開港する運びとなりました。これまでの県議会をはじめ、関係各位のご支援、ご協力に対しまして厚くお礼申し上げます。今後、一日も早く航空保安施設の整備が進められるよう強く働きかけますとともに、国際空港の誘致、国内航空路線の拡充など、九州の基幹空港の実現を目指してまいりたいと存じます。

以上が昭和四十六年度予算における主要な施策の概要であります。